

# 令和3年産水稻現地指導会（2回目）

令和3年7月4日  
JAしまね斐川地区本部 営農第一課

## ○生育調査結果

品種名	移植日	調査日 (移植後)	調査 地点	株/坪 (株間)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	※葉色 (葉色板)	葉齢
ハナエチゼン	4/25	7/1 (+67)	出東	50 株 (21 cm)	27.4	434.9	68.6	35.4 (4.1)	11.5 幼穂 20 mm
つや姫	4/29	7/1 (+63)	出東	45 株 (24 cm)	25.3	351.4	63.2	42.9 (5.6)	10.5 幼穂 1 mm
つや姫	5/5	7/1 (+57)	伊波野	37 株 (30 cm)	30.3	336.7	59.6	46.5 (6.4)	10.8
つや姫	5/15	7/1 (+47)	出東	45 株 (25 cm)	27.7	369.0	58.9	43.3 (5.7)	9.3
コシヒカリ	5/18	7/1 (+44)	直江	50 株 (21 cm)	21.8	346.0	56.2	38.3 (4.7)	8.7
きぬむすめ	5/15	7/1 (+47)	荘原	60 株 (18 cm)	30.7	568.5	55.8	39.5 (5.0)	10.0
きぬむすめ	5/23	7/1 (+39)	出東	60 株 (18 cm)	24.9	345.8	48.4	42.3 (5.5)	8.3
きぬむすめ	5/27	7/1 (+35)	伊波野	50 株 (21 cm)	28.8	457.1	42.3	39.4 (4.9)	8.0

※葉緑素計 (SPAD) による値: 平均値 × 0.2 - 2.9 = 葉色板の数値

### 《ハナエチゼン》

6月20日に幼穂形成期に入りました。7月15日頃出穂予定。

### 《つや姫》

早い梅雨入りの影響で初期生育はやや不良。その後ほぼ平年並みに回復。  
葉色は濃い。5月連休植えでは幼穂形成期に入っています。  
体系施肥は穂肥時期となります。生育状況を確認し今後の管理を進めましょう。

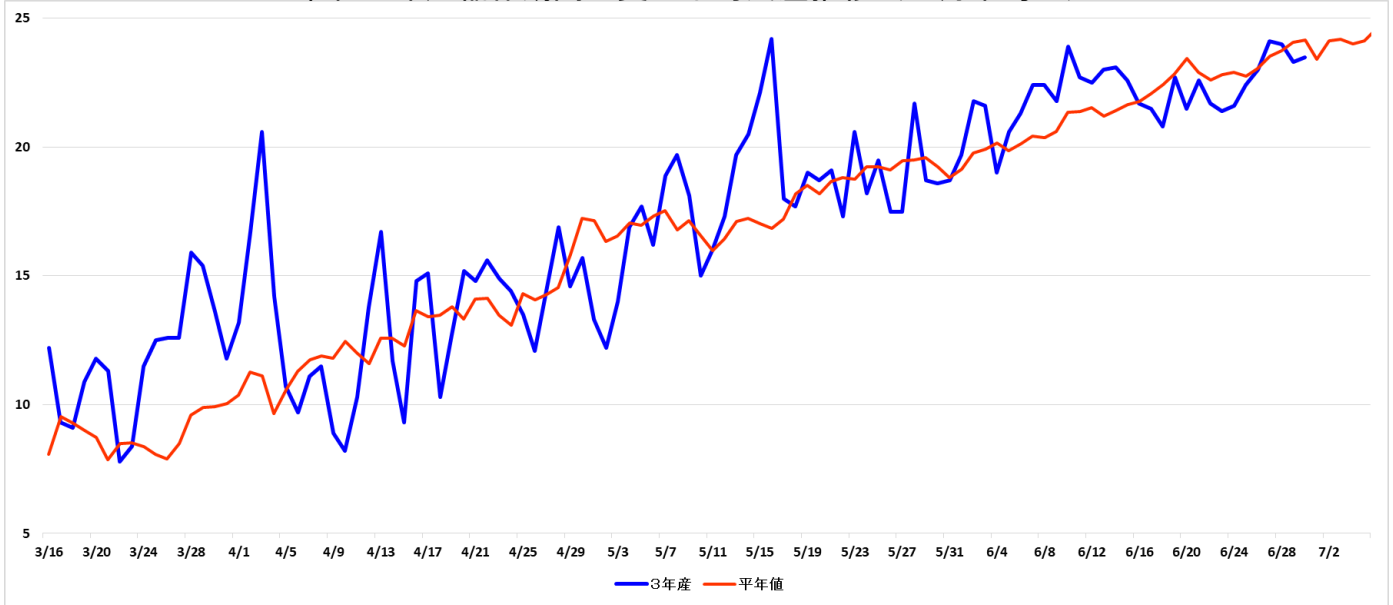
### 《コシヒカリ》

早い梅雨入りの影響で初期生育はやや不良。その後ほぼ平年並みに回復。  
間もなく幼穂形成期を迎えます。  
品質向上や倒伏防止を目指し、水管理や生育に応じた肥培管理を行いましょ。

### 《きぬむすめ》

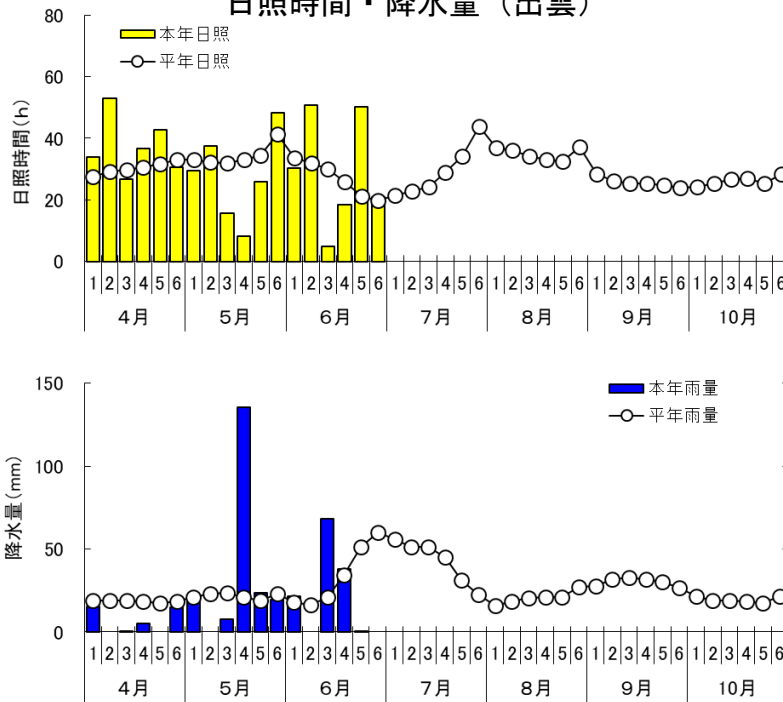
早い梅雨入りの影響で初期生育はやや不良。その後ほぼ平年並みに回復。  
葉色は濃い。5月中旬植えは、最高分げつ期を迎えます。  
急激に茎数が増加する時期なので、茎数を確認し中干しのタイミングが遅れないようにしましょう。また、葉色などの生育を確認し今後の肥培管理を進めましょう。

### 令和3年産稲作期間 斐川平均気温推移（3月中旬～）



※データ観測地点：斐川 ※平年値：2003～2020年の斐川の平均

### 日照時間・降水量（出雲）



### 中国地方1ヵ月予報（7月1日広島气象台発表）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	中国地方	向こう1ヵ月 07/03～08/02	30 (Low)   30 (Normal)   40 (High)
		1週目 07/03～07/09	20 (Low)   50 (Normal)   30 (High)
		2週目 07/10～07/16	20 (Low)   50 (Normal)   30 (High)
		3～4週目 07/17～07/30	30 (Low)   40 (Normal)   30 (High)
降水量	中国地方	向こう1ヵ月 07/03～08/02	30 (Low)   40 (Normal)   30 (High)
日照時間	中国地方	向こう1ヵ月 07/03～08/02	30 (Low)   40 (Normal)   30 (High)

Legend: 低い(少ない) (Blue), 平年並 (Yellow), 高い(多い) (Red)

## ①穂肥の施用

### 【つや姫】

施用時期	出穂前	肥料名	施用量 (10a)
幼穂長 1～2 mm	出穂 25 日前	げんき 2 号	20 kg

※目安：5月上旬植え⇒7月1日頃、5月中旬植え⇒7月5日頃

※つや姫は、「げんき2号」以外の肥料は使用できません。

### ○基肥一発型肥料（OK有機入り一発）の場合

#### 原則、穂肥の必要はありません。

ただし、**幼穂形成期頃(7月上旬)**に葉色が極端に褪めた（**葉色板で4.0以下**）場合は、穂肥を施用する必要があります。

「つや姫」に追肥を行う場合は、特別栽培米基準の範囲内（化学肥料の窒素成分量合計が4 kg/10 a以下）となるよう計算して施用する必要があります。

例えば・・・

基肥にOK有機入り一発を50 kg/10 a施用した場合、追肥はげんき2号を8 kg/10 aまでの施用となります。

肥料名	容量	N	P	K	うち化学N
NEW だいち	20 kg	2.0 kg	2.4 kg	1.6 kg	1.370 kg
げんき2号	20 kg	2.6 kg	0.6 kg	1.6 kg	2.206 kg
OK有機入り一発	20 kg	2.4 kg	1.6 kg	1.2 kg	1.200 kg

## 【コシヒカリ】

コシヒカリは穂肥の時期と施用量を慎重に判断する必要があります。

	施用時期	出穂前	肥料名
1 回 目	幼穂長 5 mm	出穂 20 日前	燐加安 403
2 回 目	1 回目の 7～10 日後		燐加安 403

※目安：5月中旬植え⇒7月10日頃、5月下旬植え⇒7月15日頃

### ○施用量（10a）

葉色（葉色板）	茎数（1株当り）	穂肥1回目	穂肥2回目
4.0 未満	20 本未満	10 kg	10 kg
	20 本以上	無施用	15 kg
4.0 以上 4.5 未満	—	無施用	15 kg
4.5 以上 5.0 未満	—	無施用	10 kg
5.0 以上	—	無施用	無施用

※葉色と茎数を確認し施用量を決めましょう。

倒伏防止には・・・

○第4、5節間の伸びる出穂30～20日前の肥効をおさえる。

茎数が多く葉色が濃い場合は、1回目の穂肥の施用時期を基準より遅らせたり、施用量を減らすなど工夫しましょう。

○倒伏軽減剤：ロミカ粒剤（2～3kg/10a、出穂25～10日前）

上位節間の伸長を抑制し倒伏軽減効果があります。

## 【きぬむすめ】

### ○つなぎ肥

葉色が褪める場合（葉色板で4.0以下）は「つなぎ肥」を行いましょう。

施用時期	肥料	施用量（10a）
6月下旬～7月上旬	燐加安 403	10 kg

※きぬむすめ特別栽培米の場合は「菜種粕」を20 kg/10a 施用して下さい。

### ○穂肥

	施用時期	出穂前	肥料名
1回目	幼穂長 5 mm	出穂 20 日前	燐加安 403
2回目	1回目の7～10日後		燐加安 403

※目安：5月中旬植え⇒7月20日頃、5月下旬植え⇒7月25日頃

### ○施用量（10a）

葉色（葉色板）	穂肥1回目	穂肥2回目
4.0 未満	15 kg	15 kg
4.0 以上5.0 未満	10 kg	15 kg
5.0 以上5.5 未満	無施用	10 kg
5.5 以上	無施用	無施用

※葉色を確認し施用量を決めましょう。

※きぬむすめ特別栽培米の場合、「げんき」を施用して下さい。

### ○基肥一発型肥料（ツバメコート SLH20）の場合

7月下旬～8月上旬頃に葉色が急激に褪める場合（葉色板で4.0以下）  
燐加安 403 を 10 kg/10a 施用して下さい。

## ②穂肥後の水管理



【水管理イメージ図】

- 中干し終了後は、**出穂期まで間断かん水を継続**し、新鮮な水の入れ替えやガス抜きを行って根の活性化を促しましょう。
- 出穂期から穂揃い期は最も水が必要な時期**になるため湛水管理を行いましょう。
- 出穂期から穂揃い期に強風が吹く場合や、フェーン現象が心配される場合は深めに水をはり、稲体を守りましょう。
- 穂揃い期以降は、間断かん水**を行いましょう。  
間断かん水の期間は出穂後25～30日は必要です。根の活力を維持するとともに収穫に近づくにつれて、かん水の回数を減らし、収穫に備えて土壌を少しずつ固めていきましょう。
- 落水時期は**収穫の7日前**を基本としましょう。  
玄米の大きさが決まるまでには、**出穂してから約4週間**かかります。概ね最初の1週間で開花・受精、次の1週間で玄米の長さが決まり、その次の1週間で玄米の幅が決まります。**最後の1週間で厚みが決まる**ため、早く落水した田んぼの米は最後の厚みが十分でなく、粒厚の薄い米になってしまいます。  
登熟期間の水管理は湛水状態にするのではなく、**出穂後は飽水(ほうすい)管理(水深3～5 cm程度にかん水し、足跡に水が残る程度の自然落水の繰り返し)**を行い、地固めをしながら玄米を太らせます。



田面の足型に水が残る程度には水分を保つ(飽水管理)

### ③本田防除

#### 害虫防除（必要に応じて）

《粒剤》トレボン粒剤	
《液剤》トレボンEW	ハナエチゼン→7月上旬
《粉剤》トレボン粉剤DL	コシヒカリ→7月中旬
《省力》なげこみトレボン	つや姫→7月中旬 きぬむすめ→7月中旬



#### 稲こうじ病予防防除（きぬむすめ）

出穂前	① 《粉剤》Zボルドー粉剤DL（出穂10～20日前）
	② 《液剤》ドイツボルドーA（出穂10～20日前）
	③ 《粒剤》モンガリット粒剤（出穂2～3週間前）



#### 全品種共通 仕上げ防除（カメムシ類）

穂揃い期	《粒剤》スタークル粒剤
	《液剤》スタークル液剤10
	《粉剤》スタークル粉剤DL
	《省力》スタークル豆つぶ

### ●今年産の注意点

初期害虫はイネミズゾウムシがやや多かった。また、6月中旬にイネクロカメムシの発生を町内一部ほ場で確認した。

町内すくい取り調査（6月24日実施）では、アカスジカスミカメが多い。また、イナゴの発生も近年増加傾向にある。

6月28日発表の病虫害発生予察情報では、コブノメイガ平年並～やや多い、斑点米カメムシ類やや多い～多い、トビイロウンカ平年並～やや多いと発表した。

昨年町内では、コブノメイガによる止め葉の食害やトビイロウンカによる坪枯れ被害が発生した。田の見回りをしっかり行い、発生には十分注意する。



写真：イネクロカメムシ被害株



写真：イネミズゾウムシ被害株

## ●防除等のポイント

### ○カメムシ類

カメムシの吸汁被害による斑点米は「着色粒」に区分され等級格下げの要因となる。  
近年、斐川町内においてもカメムシ被害による等級格下げが多い。  
ハナエチゼンは町内で最初に出穂することから特に注意する。穂揃い期の防除と、畦畔の草刈りが有効である。また、水田内にヒエの発生があれば除去する。

### ○コブノメイガ

6月下旬～7月上旬に飛来し、その後第2～第3世代を経過する。  
特に第2～第3世代は止葉まで食害するため、不稔粒が多くなり収量に大きく影響する。

### ○ニカメイチュウ

稲ワラや刈株内で越冬する。通常、年2回発生するが特に2回目の発生時期（8月上旬）に被害に遭うと白穂となり収量減となる。前年に発生したほ場では注意が必要。

### ○葉いもち、穂いもち

穂いもちの発生は出穂期の気象に左右されることが多い。  
出穂期である7月下旬から8月が低温、多雨の年には発生が多い。今後の天候を注視する。

### ○紋枯病

極端な窒素肥料の多用を避ける。  
直播栽培などで注意が必要。あぜ際を注意深く観察する。

### ○稲こうじ病

被害わらや種籾で越冬した病原菌が第1次伝染源となる。  
黒い菌核が発生してからの薬剤防除の効果はない。発病する条件は以下のとおり

- ①過去に多発したほ場
- ②生育後半の窒素が多いとき
- ③出穂前20日間に低温多雨の気象条件時

防除適期は出穂20～10日前（使用する農薬の登録内容を確認して散布する）



## 【農薬適用一覧】

薬剤名	適用病害虫名	使用量(10a)	使用時期	使用回数
トレボン粒剤	イネミズゾウムシ、イネドコロイムシ、イネゾウムシ、イネヒメモグリバエ、イナゴ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	2～3 kg	収穫 21 日前まで	3 回 以内
	ニカメイチュウ第1世代	3 kg		
トレボンEW	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イナゴ類、イネドコロイムシ、カメシ類、イネミズゾウムシ、コブノメイガ	1,000 倍 60～150L	収穫 14 日前まで	3 回 以内
	ウンカ類、ツマグロヨコバイ	300 倍 25L		
トレボン粉剤DL	イネツトムシ	4 kg	収穫 7 日前まで	3 回 以内
	カメシ類、イネミズゾウムシ成虫、ツマグロヨコバイ、ウンカ類、コブノメイガ、アザミウマ類、イナゴ類、イネドコロイムシ、ニカメイチュウ	3～4 kg		
	イネヒメモグリバエ、フタオヒコヤガ	3 kg		
なげこみトレボン	イネミズゾウムシ、イネドコロイムシ	水溶性容器 4～6 個(200～300ml)	5 葉期以降 収穫 21 日前まで	3 回 以内
	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ第1世代	水溶性容器 10 個(500ml)		
	イナゴ類	水溶性容器 6～10 個(300～500ml)		
スタークル粒剤	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネドコロイムシ、カメシ類、イネミズゾウムシ	3 kg	収穫 7 日前まで	3 回 以内
スタークル液剤10	ツマグロヨコバイ、カメシ類、ウンカ類	1,000 倍 60～150L	収穫 7 日前まで	3 回 以内
	カメシ類、ウンカ類	300 倍 25L		
スタークル豆つぶ	カメシ類	250g	収穫 7 日前まで	3 回 以内
	ウンカ類、ツマグロヨコバイ	250～500g		
スタークル粉剤DL	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメシ類、イナゴ類、イネドコロイムシ、ニカメイチュウ、フタオヒコヤガ	3 kg	収穫 7 日前まで	3 回 以内

※「つや姫」・「きぬむすめ特別栽培米」は上記の農薬のみ使用できます。

即ち、トレボン(粒剤・液剤・粉剤・省力)、スタークル(粒剤・液剤・粉剤・省力)は、それぞれ1回のみ使用可能です。

### 【稲こうじ病防除】

薬剤名	適用病害虫名	使用量(10a)	使用時期	使用回数
Z ボルドー粉剤DL	稲こうじ病	3～4 kg	出穂 10 日前まで	—
	墨黒穂病	4 kg		
ドイツボルドーA	稲こうじ病、墨黒穂病	2000 倍液を 60～150L	出穂 10 日前まで	—
モンガリット粒剤	紋枯病、疑似紋枯症(褐色紋枯病菌)、疑似紋枯症(赤色菌核病菌)、疑似紋枯症(灰色菌核病菌)、疑似紋枯症(褐色菌核病菌)、稲こうじ病 墨黒穂病	3～4 kg	収穫 45 日前まで	2 回 以内
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)、穂枯れ(すじ葉枯病菌)	4 kg		

※稲こうじ病は、黒い菌核が発生してからの薬剤防除の効果はありません。

※稲こうじ病は、防除適期に限られていて、早く散布しても遅すぎても効果が劣ります。

粉剤・液剤は出穂10～20日前、粒剤は出穂2～3週間前に散布する。

【随時防除】

薬剤名	適用病害虫名	使用量(10a)	使用時期	使用回数
アミスターエイト	いもち病、紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	1,000~1,500 倍 100~200L	収穫 14 日前 まで	3 回 以内
	いもち病、紋枯病	300 倍 25L		
ブラシフロアブル	いもち病、ごま葉枯病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、褐条病、変色米(カーブリア菌)、変色米(エピコカム菌)、変色米(アルタナリア菌)、稲こじ病、内穎褐変病、もみ枯細菌病、墨黒穂病、	1,000 倍 60~150L	収穫 7 日前 まで	2 回 以内
		300 倍 25L		
バリダシン液剤 5	紋枯病、もみ枯細菌病、疑似紋枯症(赤色菌核病菌)、疑似紋枯病(褐色菌核病菌)、疑似紋枯病(褐色紋枯病菌)	500~1,000 倍 60~150L	収穫 14 日前 まで	5 回 以内
	紋枯病	300 倍 25L		
パダン粒剤 4	ニカメイチュウ、イネツトムシ、コブノメイガ、フタホビコヤガ、アザミウマ類	3~4 kg	収穫 30 日前 まで	6 回 以内
	サンカメイチュウ第 3 世代、スクミンゴガイ(食害防止)	4 kg		
パダン SG 水溶剤	ニカメイチュウ、コブノメイガ、イネツトムシ	1,500 倍 60~150L	収穫 21 日前 まで	6 回 以内

【倒伏軽減剤】

薬剤名	使用目的	使用量	使用時期	使用回数
ロミカ粒剤	節間短縮による倒伏軽減	2~3 kg	出穂 25~10 日前 まで	1 回

【無人航空機(ドローン)】

薬剤名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数
トレボンエアー	イナゴ類、ウンカ類、カメムシ類、ツマゲロヨコバイ、コブノメイガ	8 倍	0.8L	収穫 14 日前 まで	3 回 以内
スタークル液剤 10	ウンカ類、カメムシ類	8 倍	0.8L	収穫 7 日前 まで	3 回 以内
スミチオン乳剤	ニカメイチュウ、カメムシ類	8 倍	0.8L	収穫 21 日前 まで	2 回 以内
アミスターエイト	いもち病、紋枯病	8 倍	0.8L	収穫 14 日前 まで	3 回 以内
バリダシンエアー	紋枯病	7~8 倍	0.8L	収穫 14 日前 まで	5 回 以内

お問い合わせ先  
JAしまね斐川地区本部営農第一課  
TEL:0853-73-9616  
FAX:0853-73-9074